

国名	パキスタン (Pakistan)	
主要な言語	ウルドゥー語（国語）、英語（公用語、エリート層および多くの省庁の共通語） パンジャブ語 48%、シンド語 12%、サライキ語 10%、ウルドゥー語（国語） 8%、 パシュトー語 8%、バローチ語 3%、ヒンドコ語 2%、ブラフイー語 1%、その他 （英語、ブルシャスキー語ほか） 8% 注：％は母語とする人口の全人口に対する割合を示す [米国中央情報局]	
人口学的データ	総人口（人）	216,565,318人
	15歳未満人口割合(%)	35 World Bank
	65歳未満人口割合(%)	61 World Bank
	平均寿命（歳）	67
	5歳未満児死亡率（出生千対）	69
	妊産婦死亡率（出生10万対）	140
	中等教育就学率	男性(%) 女性(%)
	前期中等教育就学率 (%)	58 50
	後期中等教育就学率 (%)	43 33 [UNICEF]
主要な死因	1位:新生児障害 血性心疾患 3位:脳卒中 4位:下痢性疾患 5位:下気道感染症 2位:虚 [Institute of Health Metrics and Evaluation HP 2019]	
主要な民族	パンジャービー族 (44.68%)、パシュトゥン族 (15.42%)、シンディー族 (14.1%)、サライキ族 (8.38%)、ムハージル族 (7.57%)、バローチ族 (3.57%) 他 [World Atlas]	
主要な宗教	国の宗教はイスラム教。イスラム教 [96.4%（スンニ派が85～90%、シーア派が10～15%）]、ヒンドゥー教 (1.6%)、キリスト教 (1.59%) など [米国中央情報局]	
日本在留外国人 (%)	18,362人(0.6%) [法務省統計 2019]	
文化社会的特徴		
1. 特徴的な価値観・行動・生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・食事に關しては、イスラム法に則った食肉処理をした肉だけが許されており、既定の処理をされた肉にはハラールのマークが記載されている。禁忌な食材は、豚肉やアルコールなどである。豚肉は、豚由来の原料や食品添加物も摂取することができない。ゼラチン、乳化剤、動物性油脂、グリセリンなどは豚由来の原料が含まれているため注意が必要である。 ・1日5回のメッカの方角に向かってお祈りを実施する。 	
2. 重要な意思決定にあたって留意すること	<ul style="list-style-type: none"> ・発言権や家計についてなどの重要な意思決定は世帯主の男性が全部決めている。 ・女性の病院の受診については、女性の患者が男性の医師の診察を受けることは、まずない。慣習上、女性一人では病院に来ることはなく、男性医師しかいない場合は、同行する男性家族が医師に症状を伝えるが、男性医師が女性患者の身体に触れて診察することはない。 	
3. 食文化	<ul style="list-style-type: none"> ・1年に1度、ラマダン月に断食を行う。日中は断食を行い、日没から日の出までは飲食が認められている。妊産婦、病人、お年寄り、乳幼児など、特別な理由がある場合は断食を免除されるが個人の信仰によって実施される場合もある。 ・パキスタン料理はいわゆるカレーが中心で、香辛料や油を非常に多く使用しており、また、古い油を使用していたりするため、人によってはお腹を壊すことがある。 ・1日に数回チャイ(ミルクティー)を飲んでいる。アルコールは禁忌なため、お祝いの際には砂糖を多く含むスイーツなどをお土産にすることが多く、甘いものを好んで食べている。 	

4. 衛生に関する価値観	<ul style="list-style-type: none"> ・礼拝をする前に必ず水場へ行き、口、鼻、顔、腕、髪、耳、足の順で洗ってから礼拝を行う。 ・用を足した後に紙を使わずに水で洗うのが一般的。 ・人・ロバ車・馬車・自転車・オートバイ・オートリキシャ・車・バス・トラックが渾然と動いており、交通事故なども多く、また、排気ガスで大気は非常に汚染されている。
5. 受療および病人のケアに関する価値観・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・女性は夫と家族以外には衣服で覆われている部分の肌の露出は基本的にしない。男女ともに慎み深さを重んじており、原則として、男性は臍から膝までを覆い、女性は顔、手と足のみを露出する。 ・同性の医師の診療が基本となる。いない場合は同性の看護師の立ち会いのもとで診療を行う。女性患者に男性の家族の付き添いがある場合、問診を始めるときなどは、患者本人へのアイコンタクトは避け、後見人となる男性と話をしたほうがよいか聞か、最初から男性と話をする方が良い場合がある。
6. 妊娠・出産に関する価値観・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・パキスタンでは、施設分娩率がまだ低く、産前健診の受診や受診内容なども整っていない状況である。 ・男の子は家に残り両親の世話をし、家の跡を継ぐというのが一般的で、反対に女の子は嫁ぐ時に高額な持参金を持たせなければならないため、男の子を望むことが多い ・結婚については、近年は恋愛結婚もあるが、お見合い結婚やいとこ婚が多い。
7. 育児に関する価値観・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・生後7日目までに名前をつけ、生まれてきたときに生えていた髪の毛を剃る。 ・男児の割礼がされることはイスラム教で規定されている。割礼は誕生から7日後に行われることが奨励されるが、男児は思春期に達する前に割礼が行われることが義務であるとされる。 ・母乳の代わりに赤ちゃんに蜂蜜や紅茶を与えてしまうことがあり、育児に対しての教育や指導体制などは整っていない。 ・女子を10歳程度から“成熟した女性”とみなすため、男子と同じ中学校へ通わせることに反対する考えがある。 ・0～9ヶ月用の日本製粉ミルクには動物性油脂が含まれるのが多く、ハラールではないものが多いため、注意が必要である。
8. 高齢者に関する価値観・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・自分より年配者の場合は敬意を払う必要がある。
9. 終末期・葬儀に関する価値観・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・会話の中に「インシャアッラー(神様が望んだら)」という言葉がしばしば登場する。生死については、アッラー(神)が決めることであり、今日死ぬかもしれないし、生きているかもしれない、たとえ死んだとしても天国に行ける。現世はアッラーのもとに行く来世のためのものであるという価値観を持っている。 ・御遺体は亡くなるとすぐに清められ、葬儀のお祈りの前にも清められる。男性の遺体の場合、清めは男性が行い、女性の場合は女性が行う。 ・死者は火葬せず土葬にて埋葬する。日本には土葬を行えるイスラム教の霊園が数か所ある。
10. 本国の医療職・医療サービスに関する特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部には政府の助成を受けている救急医療を提供する病院がある。 ・一般に公立病院での治療費は安価ですが、常に大勢の患者で混雑している。また、予算不足で十分に医療設備が整っていなかったり、院内の医薬品が不足しがちである。 ・私立病院、診療所も増えてきているが、医療費が高いため一般の人は支払いが難しい状況がある。開業医が各自で病院の建物の一部を借りて営業している私立病院もあり、検査や手術室、入院施設などを共有するというシステムをとっている場合もある。 ・代替医療としてホメオパシーなども取り入れられている。
11. その他の保健医療に関する特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には女性は家にいることが大前提であるが、女性が就ける職業として一般的なものは、医師や看護師、教員などである。多くの女性医師が専門の学位を取得しても仕事に就かず、家庭に入っていることも多い。そのため、女性の医師が少なく、女性が受診できる場所が多くはない。

12. 教育制度	<p>義務教育期間は、5歳から16歳（小学校1年生から初等高等学校2年生まで）小学校5歳～10歳、1学年～5学年(Primary School)</p> <p>中学校 11歳～13歳、6学年～8学年 (Middle School)</p> <p>初級高等学校 14歳～15歳、9学年～10学年 (Secondary School)</p> <p>上級高等学校 (Higher Secondary School) : 16歳～17歳、11学年～12学年</p> <p>単科大学 (College) : 18歳～19歳</p> <p>総合大学 (University) : 18歳～21歳 (大学・学部によって就学年数に変更あり)</p> <p>[外務省HP. 諸外国・地域の学校情報]</p> <p>このほかイスラム学校 (マドラサ) がある。</p> <p>イスラム学校ではコーランの授業が行われているが、その他の教科課程は一般学校と同じカリキュラムの実施に努めている。</p> <p>[JETRO教育事情パキスタン https://www.jetro.go.jp/ext_images/theme/bop/precedents/pdf/lifestyle_education_pk_201506.pdf]</p> <p><参考> UNESCO Webページ</p> <p>識字率 (15歳以上) 59.1%(男性71.1, 女性46.5) (2017年)</p> <p>性別小学校就学率 男児84.96、女児73.89</p>
13. その他の特徴	

担当者：高塚 綾子 (東京慈恵会医科大学)
承認日：2021年5月17日